

平成30年度 公益財団法人 吉野川紀の川源流物語 事業計画書

「自然の生命の躍動にすなおに感動できる」場や機会の提供を目指して
さまざまな動きの中において、公益法人ならではの役割を考え、行動します。

流域をはじめ都市部の人々と水源地域を結び、もってそれらの人々の公共利益に寄与することを目的として、吉野川・紀の川の源流部を拠点に、その自然的価値、文化的価値を大切にし、流域をはじめ都市部の人々にこれを伝え、共に考え、行動するため、体験学習・交流活動を通じて、広く啓発や環境教育に関する事業を行います。そして、これに必要な拠点施設や関連公共施設の維持管理・運営に関する事業を行い、源流域の自然環境保全活動に努めます。

あらためて、これら公益法人としての私たちの役割を全うすることにより、地域の環境課題や振興、さらに地球規模で目標達成を目指すSDGsおよびESD（持続可能な社会の担い手となる行動できる人づくりのための環境教育）等の動きにおいても、独自の機能を発揮し、貢献することを目指します。また本年度も他との連携や協働を展開しながら、事業の成果として「感動」が伝わるような発信を試みてまいります。

公益事業Ⅰ 環境学習・体験プログラムの提供にかかわる事業

1. 「吉野川源流－水源地の森」体験プログラムの提供

- ・定例水源地の森ツアー (3回)
- ・団体毎の受け入れ (随時)

2. 森づくり体験プログラムの提供

- ・源流学の森づくり (ボランティアにより2回程度)
- ・関労かわかみの森活動等受け入れ (2回)

3. 体験学習を通じた環境教育の実施及び支援

- ・団体毎のエコツアー受け入れ (随時)
- ・学校教育団体支援 (随時)
- ・「森と水の源流館授業づくりセミナー」(近畿ESDコンソーシアム)

4. 水源地域の環境保全にかかわる人材の育成

- ・源流人会の運営
- ・草刈りボランティアの機会づくり (2回)

公益事業Ⅱ 流域交流・啓発にかかわる事業

1. 水源地域の自然及び文化を介した交流行事の実施
 - ・源流のつどい
(巨樹めぐり、御船の滝氷瀑、他地域の環境活動団体との交流など)
2. 水源地の環境保全の普及啓発のための行事等の開催、印刷物等の刊行、
電子情報媒体の作成
 - ・流域連携・交流、啓発・P R (ESDの視点を強調 随時)
 - ・川上村環境基本計画推進業務
(役場・公共施設職員研修、村民の流域学習会等)
 - ・機関誌『ぼたり』刊行 (3回)
 - ・ホームページメンテナンス (通年)
 - ・森守募金キャンペーン (おはなしカーニバルと連携)
 - ・源流シンクタンクの運営 (適宜)

公益事業Ⅲ 源流域の自然や歴史の調査・研究にかかわる事業

※川上村より地域おこし協力隊1名の受け入れを行い、調査・研究及び発信を強化

1. 水源地域及び流域における参加型観察調査会の実施
 - ・吉野川紀の川しらべ隊 (4回)
 - ・旧白屋地区の定期観察と発信 (各季)
2. 「吉野川源流－水源地の森」自然実態調査の実施
 - ・水源地の森自然実態調査 (通年 植物類重要種調査)
 - ・水源地の森下層植生調査 (4回)
3. 源流部における斜面崩壊地での対策実験及び経過観察の実施
 - ・シカ害防止柵や土留め柵設置箇所の観察

公益事業Ⅳ 拠点公共施設の管理・運営にかかわる業務

1. 展示を通じて情報発信を行う施設の管理
 - ・森と水の源流館管理 (通年)
 - ・企画展(野鳥・古木関連) (1回)
2. 源流部での体験活動の拠点となる森とこれに附帯する施設の管理
 - ・水源地の森管理 (通年)
 - ・水源地の森交流施設管理 (通年)

収益事業Ⅰ ミュージアムショップ事業

- ・ミュージアムショップ事業 (通年)

収益事業Ⅱ 受託事業

- ・和歌山市民の森づくり (和歌山市)
- ・水のつながりプロジェクト (川上村)
- ・吉野川紀の川型流域連携モデルの具現化業務 (川上村)

(いずれも予定)